

2023 年度 調査事業の概要

調査事業は、手賀沼流域フォーラム実行委員会からの委託により美しい手賀沼を愛する市民の連合会（以下、美手連）が毎年実施しています。2023 年度の調査事業は、以下の 4 項目について取り組みました。

（1）手賀沼流域の外来水生植物・在来抽水植物調査

1）我孫子市都部谷津のナガエツルノゲイトウ観察報告/2023 年度

手賀沼から取水している水田や畦畔で特定外来生物のナガエツルノゲイトウが繁茂し、稲作に被害を与えています。我孫子市都部谷津の狭い面積でナガエツルノゲイトウに対し異なった対応をしている地点を選んで、2022 年度に引き続き、ナガエツルノゲイトウの生育の違いを観察しました。

2）手賀沼水生植物船上調査—マコモ、ヒメガマの分布状況—

県による外来水草駆除作業後の再繁茂等の状況確認と、在来抽水植物の分布状況を確認するため船上からの目視調査を行いました。

（2）大津川のオオカワヂシャ調査

2011 年大津川河口の土砂堆積地で特定外来生物のオオカワヂシャの生育を確認し、その後、手賀沼や大津川流域で調査を実施してきました。調査時に引き抜き、2016 年からは、手賀沼流域フォーラム実行委員、美手連会員、ボランティアの皆さんと上大津川と逆井方面水路で駆除作業を実施してきました。

駆除の目的は、手賀沼への流入阻止と、在来のカワヂシャとオオカワヂシャの交雑阻止でしたが、今はすでに交雑していると専門家からの指摘がありました。そこで、昨年度の 2023 年 3 月の駆除を最後とし、2023 年度は調査のみを実施することにしました。

（3）手賀沼の魚類・貝類調査

毎年、美手連構成団体の手賀沼水生生物研究会が担当しています。2023 年度は、9 月 16 日にモンドリによる定量調査とガサガサによる定性調査を並行して行いました。

（4）手賀沼の水の残留農薬分析

手賀沼の生態系が変わってきている中、今、手賀沼の水はどうなっているのかの現状把握の一環として、昨年度 2023 年 2 月下旬に引き続き、残留農薬分析を実施しました。2023 年度は、代掻き、田植えなどが行われる 5 月と、カメムシ対策等の殺虫剤の散布時期である 7 月の 2 回を選定し、ネオニコチノイド系殺虫剤とネオニコチノイド類似の新しく開発された殺虫剤、除草剤グリホサート等を分析しました。



都部谷津ナガエツルノゲイトウ観察



手賀沼船上調査